

国際協力特別賞

ランドセルを通じて知れた事

京都市立下鴨中学校 3年

飯島 彩乃

私の父の会社では、社員の家族が小学校へ入る時、無料でランドセルが贈呈され、使い終わると発展途上国へ送られるというプロジェクトがありました。

小学一年生の時、使い終わると海外へ送られるということは何となく知っており、ランドセル贈呈式できれいでピカピカのランドセルをもらいました。六年間もランドセルを使っていると小学校の楽しい思い出などがたくさんランドセルへつまっていました。

小学校を卒業した時、私が大好きだったランドセルは回収されました。この時、私は、たくさん思い出がつまったランドセルは家で大事に置いておきたいという気持ちがあり、ランドセルが回収されるのがとても嫌でした。そして、私は父に、なぜ使い終わったランドセルが海外へ送られるのかということを聞きました。

そして、父に教えてもらいました。世界の発展途上国では、お金がないために、一日中大変な仕事をしていて学校へ行けない子供がいること。また、綺麗な水が飲めなくて伝染病にかかったり、食べ物が十分に食べられず餓死する子供がいること。これを聞いて自分は当たり前のようにしていることが当たり前でできなくて苦しんでいる子供たちがたくさんいることにとてもおどろきました。そして、ランドセルはそういう子たちに送られ、少しでも喜びが与えられていると知りました。

また、父の会社のプロジェクトは二十十年から行われており、輸送費などは全て会社が負担したり、寄付も行っていると聞いてとてもすばらしいと思いました。

こうして私は、一つのランドセルを通じて世界の現状を少し、知ることができました。私のランドセルはどんな人が使っているかは全く分かりません。でも、少しでも役に立っていると思うと、とてもうれしいです。そして私はこういう子供たちにできることを考えました。すると、思い返してみれば、ペットボトルのキャップ回収や着終わった服を寄付するなど、身の回りに私でもできる事がたくさんあると思いました。なので、これからはこのような活動に積極的に参加し、もっと世界の現状を知って自分にできることを考えて行動したいです。また、いずれは父の会社の様なプロジェクトを立ち上げ世界の貧しい子供たちを救えるような人になりたいです。